

大東市水安全計画

概要版

令和6年3月

大東市上下水道局

水安全計画とは

「水安全計画」は、食品製造分野で確立されている HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) の考え方を参考とし、水源から給水栓に至る全ての段階で危害を起こす要因 (Hazard) を分析 (Analysis) し明確化した上で、危害のもっとも効果的に管理できるポイント (必須管理点: Critical Control Point) を重点的かつ継続的に監視することにより衛生管理を行い、安全な水の供給を確実にした水道システムを構築するものです。

水安全計画の主な要素

1 危害(リスク)の洗い出しと分析

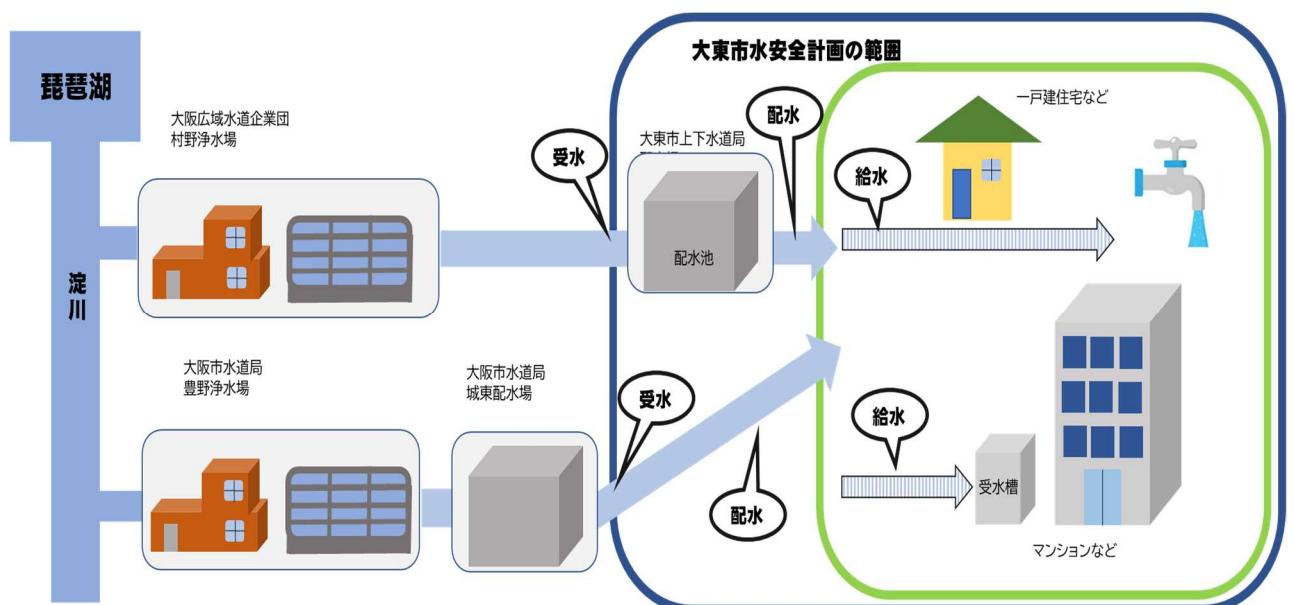
水源から給水栓(蛇口、集合住宅または高層建築物の場合は受水槽)までの水道水に影響を与えるリスクを洗い出し、それぞれの起こり得る頻度と影響の大きさを分析することで水道水の安全性が向上します。

2 マニュアル、リスクの作成と記録管理

リスクの発生防止、影響の軽減のための手段を設定し、関係部門共通の対応マニュアルを作成します。

3 技術の継承

PDCAサイクル継続的に運用することで、計画や対応の見直しを行い技術力の向上を図ります。



水安全計画の策定の目的

将来にわたり安全な水を安定供給できる水道システムを構築し、効果的で高水準な維持管理体制を維持・向上させていくことを目的とする。

○水道水の安全性の向上

水源から給水栓(蛇口)までにあり得るリスクを事前に知り、そのリスクを評価・分析することにより、市民のみなさんが飲む水道水の安全性を高めます。

○おいしく安全に飲める水道水の供給

定期的に計画的な水質検査、自動水質監視装置(水質モニター)による水質監視とともに、水質状況と連携した配水を行うことで安心して飲める水道水をお届けします。

○技術の継承と維持

マニュアル化した対応方法を定期的な確認や見直すことにより、安全・安心な水道水をお届けするための技術を維持します。

継続的なPDCAサイクルによる検証

水道水の安全性に係る様々な要因や条件は変化します。体系的に整理したリスクマネジメントに基づき、将来にわたり安全性を維持していくためには「大東市水安全計画」を継続的に検証し、必要に応じて見直しを図ることが必要です。こうしたPDCAサイクルを運用することによって水道水の安全性を向上していきます。

